

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271102248		
法人名	特定非営利活動法人 こすもす会		
事業所名	グループホーム なごみ		
所在地	長崎市琴海村松町319番地		
自己評価作成日	平成25年10月15日	評価結果市町村受理日	平成26年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成25年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれ静かな環境のもと、四季折々の果物等の収穫を楽しみながら、理念に基づき(共に生き、共に暮らし、共に楽しむ)利用者の皆さんが、住み慣れた地域の中で安心して普通に泣き笑いしながら楽しく過ごせる環境と雰囲気づくりに努めながら、地域に信頼される施設を目指している。そんな中で看護師が常勤、及び夜勤アルバイトの勤務体制を整え、胃瘻、透析の方の受け入れも可能である。異常を早期発見し重症化を未然に回避しその人なりの健康を整えるために、兄弟施設である有限会社コスモス会の訪問看護ステーション(きんかい)及び他の医療機関との連携を密にし利用者の方の異常に合わせ早期に医療的治療にスムーズに対応することができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路から入った静かな山あいの集落にあり、周りを自然に囲まれ四季を感じ取れる環境に位置している。代表の創設の思いは今もぶれる事なく「利益追求ではなく、利用者に最期まで寄り添っていく」姿勢を貫いている。職員は介護理念の「共に生き、共に暮らし、共に楽しむ」を理解し、笑顔で利用者への支援に努めている。利用者はそれぞれのペースで日中リビングで過ごすだけでなく居室で好きな時間を過ごすなど穏やかな一日が流れている。事業所は代表が生まれ育った地域であり、行政や地域には友人知人も多く、行政の依頼を受けた認知症キャラバンメイトの活動は地域貢献の思いで行っている。また、職員には看護師が多く、医療面や緊急時にに関して本人・家族の安心に繋がっている。介護度の高い利用者を楽しい一日を送ってもらいたいと日々検討している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	なごみ、の理念として地域への貢献を掲げており地域密着型サービスとして、住み慣れた地域で、ゆっくりと生活をして頂く為に「共に生き、共に暮らし、共に楽しむ」を介護の理念としている。	事業所には事業所の理念「安全と安楽の保障・地域への貢献」と介護理念「共に生き、共に暮らし、共に楽しむ」がある。職員は介護理念を基に利用者への丁寧な声かけや支援に配慮し、利用者の暮らしを支え、感動を共有出来るよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	理事長自身地元出身であり、地域の役員であったり、地元の老人会入会しており、また、地元の方がこすもす会の役員だったりと関係で、近隣の方々より野菜、果物を頂いたり、地域の方々の出入りもあり、利用者の方々とも顔見知りが多い。	商工会主催の体験学習について小学生を受け入れたり、地元の鬼火炊きに参加している。事業所の敬老会に地域の高齢者を招待し60名余が集う機会となっている。又、利用者は地域出身が多く、地域住民からの差し入れや面会があるなど気軽に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学やビジネススクール育成事業(商工会主催)地域の小学生の体験学習など積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域老人会参加時、地区総会時など認知症介護の在り方やホームでの生活状況説明、自宅介護されてる方には必要に応じ介護のアドバイスなどしている。	年4回開催しているが、内3回は規程の委員が揃っていない。会議では事業所からの報告に委員から意見が出たり、小規模多機能型居宅介護事業所とグループホームの違いなどに質問が出ている。その他意見交換もあり、事業所の理解に繋がっている。	運営推進会議は規程の委員が参加し開催することが望ましく、様々な意見交換は事業所運営の向上に繋がると期待される。また、運営推進会議の年6回開催に向け工夫検討が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センター主催の勉強会等に参加、協力認知症サポーターキャラバン・メイト要請講座参加、介護相談員受け入れなど必要な関係は保たれている。	管理者は認知症サポートキャラバンメイトの資格を持ち、行政の依頼を受け、学校訪問し寸劇で認知症への理解を広げている。また、地域の高齢者見守りネットワークに参画したり、県主催の学習会に参加したり、介護相談員を受け入れる等連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待防止などの勉強会参加、拘束ゼロを目指し毎日の介護業務にあたっている。また開設当初より昼間の玄関はオープンにしている。	日中の玄関の施錠はなく、職員は身体拘束の外部研修を受け、職員会議で発表し共有に努めている。身体拘束ゼロは当たり前とし、日々の支援に努めている。ただし、夜間帯のベッドからの転倒リスクに対応するため4点柵を使用している。	夜間のみであるが、ベットの4点柵は身体拘束にあたる。緊急やむを得ない事態である場合も家族への説明と同意書及び解除に向けた日々の記録と毎月の検討会議録を行政へ報告することが待たれる。又、身体拘束の禁止行為を再確認されたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴力受けても暴力するな、を合言葉に虐待や拘束は、あってはならないと常に話をし職員に意識付けを行っている。また特に新人の夜勤時には注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会、勉強会に参加し成年後見制度について学びある程度は理解している。利用者家族にもパンフレットなど配布し相談時には説明、アドバイスできるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	包括支援センター、利用者家族からの紹介見学あり、ご家族の要望によっては本人様にも、現場の実際を十分に見ていただき、不明の点など説明、入居時再度説明し納得の上で入所してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の介護の中で言動や表情の変化を注意深く観察、不満など無いか確認、面会時にはご家族との会話も多く持ち要望など云いやすい雰囲気作りを努め、介護相談員の方の派遣を受け相談にのってもらっている。	家族の面会は多く、その都度要望や意見を聞いている。遠方の家族には行事や日頃の様子を写真に撮り送るなど家族との関係作りに努めている。又、苦情処理の説明は契約時に文書をもとに行っている。リビングに掲示している利用者の写真は希望があれば家族にプレゼントしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常勤でスタッフ、利用者の方と共に生活し、食事と共にしながら雑談、スタッフが意見を述べやすい雰囲気を保つように心がけている。	代表は職員の意見や要望は、毎月の職員ミーティング時や日々の支援時に聞き取っている。代表は職員の勤務希望を聞いたり、給料日には一人一人にお礼状を渡すなど働きやすい職場作りに配慮している。絨毯の張替えや敬老会の準備など職員の意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握するため管理者は常勤し、経験年数、に応じた介護ケアができていないかを観察しお礼の手紙に合わせ、アドバイスの文章を給料明細書内に同封し楽しく仕事ができるよう頑張ってもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	レベルに応じた研修、GH連協における研修会など交代で参加、また事業所独自の勉強方法で教育し疑問などは上司や管理者が説明している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会、事例検討会市GH連協主催のレクリエーションなどに参加。また他施設の行事に参加したり交流をとりながら介護の質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に先立ち、ご家族と共に見学してもらったり、十分に施設の雰囲気を感じてもらい、ご本人の要望、ご家族の要望に耳を傾けながら十分な情報を頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から相談に応じ、介護理念の説明、日常生活の在り方など説明し場合に応じては頻回な面会などしてもらい、ご家族が安心できるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最近では病院からの紹介が多くなってきているが、その人の状態、ご家族の希望などがある場合にはショートステイや他施設紹介も可能であることを伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症は神が与えた休みの時間であることを認識し、全スタッフが理念に基づき、お互いに楽しく共に支えあいながら、ゆっくり流れる時間を大切に出来るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族によっては遠方過ぎて面会にこれないご家族だったり様々であるため、誕生会の写真やレク時の写真など、現状報告と合わせ郵送し、共に支えあっている関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	流行性疾患がないかぎり、面会の制限はしていない。ご家族はもちろんの事親戚、友人、地域老人会の方の来所あり、時には神父様にも来ていただいている。	利用者は地域に暮らしていた人が多く、事業所の近辺は馴染みの環境である。自由に家族との外出ができ、又、毎月神父の訪問がある利用者もいる。住んでいた地域の老人会から面会に来るなど訪問者は多く、職員は利用者の馴染みの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつ時間前には皆でゲームしたり、食器拭きの手伝いをしてもらいながら、楽しく過ごせる雰囲気づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後に不幸などの連絡があった場合には葬儀参列し、忌明け頃までは何らかの関係を保っていることが多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情や言葉遣い動きの中から、その人の精神、身体的状態を把握し、その人に合った介護を展開し個々の生活リズムに合わせ楽しいものであるように努めている。	職員は日々の支援の中で利用者の生活リズムを周知しており、入浴時やおやつの時間など利用者やゆっくり話したり、利用者同士の会話や表情でその日の気分を判断している。又、知り得た情報はすぐに職員に伝え共有し、思いを汲み取る支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供により、その人の趣味や癖、生活パターンなどを把握し不足した情報は面会時などに追加情報を頂き、一日も早く施設の雰囲気慣れて頂ける様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の健康チェックはもちろんの事一人一人にその時の状態に合わせた対応を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チーム受け持ち性でモニタリング行い、不明なことは本人やご家族と相談するなどし、出来るだけその人らしい生活ができるような介護計画作成に努めている。	長期6ヶ月、短期3ヶ月の介護計画を作成している。家族の希望を聞き取り反映したいと考えているが、家族からの希望は少ない。現在はケアマネージャーが素案を作成し、職員の意見を聞いて完成している。月1回のケア会議で検討しているが、ケアマネージャーが希望するチームで作る計画とはなっていない。	介護計画は利用者の生活を支える根幹でもあり、関わる職員や主治医、家族の意見等を反映し作成することが望まれる。そのための仕組みを検討することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康状態チェック表に基づき、その日の健康状態や排尿回数、排便の有無確認をすると共に一日の行動、訴えなど時間的に個別カルテに記録記載し皆で情報を共有し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の要望があれば、外出、外泊はいつでも可能。またその人の状態に応じ買い物の手伝い、ドライブなど行い、安らぎのある楽しい日々を過ごしてもらえるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民との交流はもちろんの事、小学生の体験学習や、種々研修実習など積極的に受け入れ他施設の行事や地域の行事にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、入所前に通院、又は入院されてた医院、病院への通院を原則としている。通院不可能な場合には、ご家族と相談し緊急時のことも考え協力医療機関である、近隣の病院へ紹介してもらっている。	利用開始前からのかかりつけ医を継続受診している。受診は職員が同行しているが、家族が同行する場合もある。受診後変化があれば、家族に報告し、職員間で共有している。夜間帯の変化は、代表が看護師であることから連絡を取り指示を仰ぐ体制がある。24時間対応の医療機関と提携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	理事長が看護師で常勤、看護師アルバイトが(日勤、夜勤合わせて)4名理事長不在時には、兄弟施設である訪問看護スタッフの指示を受けるようなシステムになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	長期入院は認知の進行があるため、入院中寂しい思いをさせないよう、顔見知りのスタッフが面会に行ったり、主治医、担当看護師及びケースワーカーとの面談も密にし早期の退院に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	夜間でも対応して頂ける様常に連携を図っており、利用者の方が重度化した場合には、ご家族と相談、場合によっては訪問看護による医療行為を受けている。最終的には、医師、家族、施設と話し合い看取りか入院を決定している。	看取りに関する指針がある。看取り介護の同意書を整備し、家族に同意を得る仕組みがある。事業所は看取りを行うこととしており、利用者が元気な時から話をして変化があった段階でその都度家族と話し合っている。訪問看護師も契約している。家族の判断を優先しており、入院先で亡くなる利用者も多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアル、連絡網作成し、必要に応じ救急蘇生法の指導、シュミレーションを行い、図解を解りやすい所に張り出したりすと共に吸引器も準備し、取り扱いも指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては二階からからの避難経路及び一時避難所を増設、通報装置、スプリンクラー設置済み、春の初期消火実施、秋には消防職員の指導の下、地域の方の参加してもらい避難訓練実施予定(10月28日)	9月から毎月の消防訓練計画書に基づき、訓練を実施している。10月には消防署の立会いにて夜間想定で避難訓練を行い、地元住民の参加も得ている。自然災害に関して地震や台風時のマニュアルを揃え、米10俵を備蓄している。又、2階からの避難に備え通路を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉による拘束、虐待などがないように、スタッフ間で声掛け合いながら、その人にふさわしい対応を心がけ、また個々のプライバシーを損ねないように十分注意している。	職員は利用者の居室に入る時にはノックをし、必要以上に入室しないよう配慮している。代表は職員に対して利用者には目上の人への尊厳を重視した支援を行うよう指導している。書類は所定の場所に保管しており、家族から個人情報保護の同意書を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人の希望に応じられるよう雰囲気づくりに努め、散髪に引率したり、施設必要物品買い出しに同伴してもらったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、大きなイベント以外は、週間、月間予定表はなく入居者の状態、天候、スタッフ勤務状態など見ながら、ドライブに出かけたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活自立の人は見守り、自己決定のできない方に対しては介助し、希望に応じ行きつけの理美容院に通ったり、化粧品購入など、お手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事介助を必要とする方が増え、嚥下状態を観察しながら、声掛けをしたり、その人のペースに合わせ、出来るだけ楽しみながら食事ができるよう心がけている。	利用者の嗜好に配慮しながら、昼食と夕食は外注業者に委託している。それ以外に職員と利用者がレクリエーションとしておやつを作って食べたり、誕生日にはケーキでお祝いするなど、食事が楽しくなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食、夕食は外注食とし、専門栄養士による栄養計算(毎週)をしてもらっている。排尿回数チェックしながら、おやつ時、食事時の水分補給には注意し脱水などにならないよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科Dr及び歯科衛生士に往診してもらい、検診、口腔内清潔保持の指導を受けながら、毎食後の歯磨き、義歯の洗浄など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	健康状態観察表で排尿時間、誘導時間を確認しながら、時間的にトイレ誘導し、失禁の軽減に努めながら、Pトイレ使用の方にはコールにて介助排便調整にも心がけ健康管理に努めている。	排泄はチェック表に記録しながらパターンを把握し、トイレへ誘導している。職員は会議で話し合い、利用者ごとの排泄支援に努めている。その結果、日中はオムツをはずし、自力でトイレでの排泄が可能になった利用者やオムツから布パンツへと改善した利用者の例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康状態観察表にて排便の有無、便秘日数などチェックしDr、看護師の指示のもと浣腸、摘便にて対応することもあるが、受診時Drと相談し下剤などの処方を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	殆どの方が介助を必要とするため、個々の希望に応じた支援は不十分であるが、入浴順位などには気配りし、失禁などあった場合には、いつでもシャワー浴できるような設備にしている。	夏は週3回、冬場は2回の入浴を支援している。車椅子の利用者も浴槽に浸かれるよう職員2人体制で介助している。利用者から希望があり、ゆずを浮かべたり、入浴用の牛乳で正月には牛乳風呂を提供するなど、入浴が楽しみになるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整え、不安の除去に努めながら、夜間十分な睡眠がとれるよう支援、眠剤も主治医と相談し最少限度の安定剤、眠剤にしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書を個々のカルテに綴じ込み、薬の作用、副作用が分かるようにし、処方変更時にはリーダー簿にも記載し、申し送りもする。誤薬のないように注意しながら与薬。薬は事務所内管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	長期入所に伴い体力低下の方が増え、車椅子での生活になり、生活歴を活かした役割行動は少なくなってきているが、元気な方には食器拭きなどの手伝いをしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材、日用品、消耗品などの買い出しの荷物持ちなどで、手伝ってもらったり、理美容院への引率など限度はあるが、できるだけ個々の要望に応えることができるように努力している。	日頃から近隣へのドライブや敷地内での外気浴など、利用者が室内に籠らないよう支援している。職員が買い物に出掛けるときには声をかけ、希望する利用者と一緒に掛けている。車椅子利用者も福祉車両を利用して外出しており、病院受診のあとに近くをドライブするなど気分転換に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にご家族との話し合いにて、基本的には自己管理はない。嗜好品、日用品は殆ど代理行為で施設が一時立て替えの形態をとっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は受け取ることが殆ど、外出、外泊などの確認のため要望あれば電話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方と信頼関係を築きながら、居室の整理整頓、四季折々の果物提供したり、テーブルに花を置いたりしながら、室温の調整などに気配りし、気持ちよく生活が出来るように支援している。	リビングの窓からは海や山が一望でき、季節を感じて生活できる空間となっている。室内にアニマルセラピーを兼ねて犬を飼っており、利用者は犬に声を掛けるなど生活の楽しみとなっている。室内は朝から職員が清掃しており、気になる臭気もなく衛生的で快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	殆ど居室での生活が多いようであるが、リビングにてレクリエーションを楽しんだり自由に楽しんでもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時危険物でない限る荷物の制限はしていない。ご家族にも出来るだけ馴染みの物を持ってこられるように依頼している。また本人の要望があれば、家具類を揃えたりしながら、少しでも居心地の良い施設であるよう心掛けている。	居室には利用者の馴染みの物があり、仏壇や家族の写真などを配し、それぞれに個性的な空間となっている。日中、リビングに集まってレクリエーションを楽しむだけでなく、居室で好きな時間を過ごすことも出来ており、職員が利用者ごとの過ごし方を支援している。掃除は朝から職員が行い、居心地のいい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理解が不十分な方には居室ドアにお気に入りのマスコットをぶら下げたり、居室でも、ゆっくり面会できるように椅子、テーブルを設置したりしている。		